

# お釈迦さまのお悟り

平成25年12月第2週放送

曹洞宗では、本日十二月八日を、お釈迦さまがお悟りさとを開かれた日として大切にしています。

お釈迦さまは、人間の持つ迷いや悲しみに幼い頃から苦しみを募つらせ、二十九歳の時、出家をされました。そして、六年にわたる苦行くぎょうを行いましたが、心の安らぎを得ることはなかったといえます。そこで今度は、身も心も静かに坐禅を組まれたのです。この修行によって、様々な迷いや悲しみ、欲望などを深く見つめ、克服する道を見出され、更に深い深い安らぎの心境へと進まれていったそうです。

そして、十二月八日の明け方のことです。東の空に明けの明星を見つめられたことがきっかけとなって、お釈迦さまはあらゆる苦しみを克服し、そして二度と同じ苦しみに戻るふっだことのない、悟りの人、仏陀とされたのです。

さて、お釈迦さまが開かれた悟りさととは、一体、何だったのでしょうか。そのひとつに、「因果の道理いんが どうり」といわれるものがあります。

この世には、自分が直接関与かんよすることで生じる「原因」と、自分が関与することができない周囲からのさまざまな「縁えん」があり、これらがさまざまに組み合わせることによって、「結果」が生じている。そのような考え方を「因果の道理」といいます。

この「因果の道理」は、私たちが生きていく上で大変身近な考え方です。夢を叶えるためには、努力が必要ではありませんか？ それも「因果の道理」です。ただ、それだけではないところが大切なのです。自分の努力だけではなく、周囲との縁、さまざまな巡り合わせがなくてはならないと、「因果の道理」は説いているのです。

今年の夏は、日本各地が異常気象に悩まされました。あまりにも気温が高かったり、あまりにも降水量が多かったりと、今年ことは難しい天気あまの年でした。

農家では、どんなに一生懸命心をこめて畑仕事をしていても、天候に恵まれなければ、その努力は水の泡です。でも逆に、天候に恵まれ丹精こめて育てた農作物が、思った以上に収穫できることもあります。そんな時には嬉しく思い、来年もがんばろうという気持ちになることでしょう。

一生懸命がんばったのに、報われない努力もあります。心からの願いなのに、叶わないこともあります。それは努力が足りないわけでも、まわりの誰かが悪いわけでもありません。種をまき、世話をしても、日光や雨風などのバランスが良くなければ、花が開かないことも、実を結ばないこともあるのです。

逆に、しあわせに包まれて生きる道もあるのです。それは、しあわせに向けて正しい努力を積むこと。そして、果てしなく連なる巡り合わせを大切にすること。これが「因果の道理」が教えてくれていることなのです。

今から二千五百年以上ものむかし、十二月八日、お釈迦さまのお悟りは、私たちにとって大切な生き方を示されたのでした。

— 終 —